

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点		
輝く笑顔 弥生っ子 やさしく 助け合う子 よく学び よく考える子 いきいき 活動する子	【豊かな心】 ・自他ともに大切にし円滑な人間関係を育成する集団づくり ・道徳的実践力の育成 ・コミュニケーション能力の向上	【確かな学力】 ・学ぶ楽しさや学習意欲を喚起する授業づくり ・体験的な学習、問題解決的な学習の充実 ・基礎、基本の確実な定着 ・家庭学習の充実	【健やかな体】 ・基本的な生活習慣、運動習慣確立 ・食に関する指導の充実 ・日常体育の充実と外遊びの奨励 ・危険予知、回避能力の育成

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語A・B、算数Bについては、平均正答率が県平均を上回った。 ○国語Aの「読むこと」の領域が県平均より正答率が低い。 ○俳句の情景についての考えや俳句のよさについて適切なものを選ぶ問題の正答率が低い。 ○算数Aの「量と測定」の領域について課題がある。 ○5÷9の商を分数で表すことや、底辺と面積の関係について課題がある。 県(3～5年) ○4年生は、国語・算数とも県平均に近い結果だが、3・5年生はどちらも課題が多く、県平均を下回っている。 ○3年生は、国語・算数ともに、上位層も下位層も多く、二極化の傾向が見られる。 ○算数の基礎的な問題は、3～5年とも課題が多く、活用的な問題は3・5年に課題が多い。 ○3～5年生とも漢字の読み書きについては、ほぼ定着ができています。	【学習状況調査の結果】 ○テレビの視聴時間 普段2時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする割合は、県平均より低い。 ○テレビゲームの時間 普段1日当たりテレビゲームを「2時間以上している」は、県平均よりも下回っている。 ○家庭学習の時間 学校の授業時間以外に、「普段1日当たりどのくらいの時間勉強しているか」の回答で、「2時間以上している」の割合は、県平均よりも高い。 ○読書時間 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどのくらいの時間読書をしているかの割合は、県平均よりもやや低い。 読書が好きな児童の割合が、県平均よりも低い。 ○あいさつ 5年生の結果から「学校では先生に挨拶をしている」は県平均より低いが、「家の人に挨拶をしている」は県平均より高い。 ○自己肯定感 「自分にはよいところがあると思う」肯定的な割合が高い。 ○運動習慣 放課後や土曜日にスポーツをしている割合が高い。

成果	課題
○毎日の家庭学習や朝学習で漢字学習に取り組み、読み書きの力が伸びた。 ○難しい問題についても最後まであきらめずに考える児童が増え、無解答率が低くなった。 ○放課後の補充学習や家庭学習で、前学年で学習した内容や苦手な問題に取り組む時間が増えた。 ○毎日の授業で「自分で、ペアで、みんなで考える」時間を取り、授業改善が進んでいる。 ○「自分にはよいところがある」という児童が増えた。	○算数の基礎的な計算や図形の理解について、依然として課題が残っている。 ○文章で答える問題については、得意な児童とそうでない児童との差が大きい。 ○家庭学習の習慣がついているが、予習・復習・自主学習など内容の充実が必要である。 ○読書時間や読書が好きな児童を増やすことが大切である。 ○「学校では先生に挨拶をしている」と思っている児童が少ない。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
国語・算数の基礎的な問題の定着	3月まで	全学級で問題データベースやふりかえりプリントの活用を最低月に1回行う。	・朝学習・授業・家庭学習・放課後補充学習で問題データベースのプリントを使って、苦手な単元や間違えやすい単元の問題を繰り返し復習する。	・学年団ごとに苦手な内容を補充するために必要なプリントを決め、継続的に取り組むことができた。	B	・苦手な内容を補充するために継続的に授業や朝学習に取り組むことができた。	B	・朝のモジュール学習で国語を週3回行い、その他の日に算数の学習をするように計画を立てる。学年団で内容を確認しながら、学力向上に向けて取り組む。
家庭学習時間を学年×10+10分を目標にする。	3月まで	家庭学習時間について学年×10+10分が学校全体の80%以上できるようにする。	・家庭学習の手引きを使って、児童だけでなく、保護者へも協力を依頼する。 ・自主学習について、児童に内容をアドバイスしたり、模範となるノートを掲示したりする。	・模範となる自主学習等のノートを教室や廊下・学級通信などで知らせることによって、目標をもって学習できる児童が少しずつ増えている。	B	・家庭学習時間調べでは、80パーセント以上の児童が毎日取り組むことができています。	A	・家庭学習の手引きを使って今後も家庭学習の習慣づけを図るとともに、家庭学習や自主学習の内容の充実に向けて取り組む。
学校だけでなく、家庭・地域でも進んであいさつのできる児童を育てる。	3月まで	児童アンケートで、「進んであいさつをしている」が肯定的な児童の割合を75%以上にする。	・毎週水曜日に運営委員会の児童と教員があいさつ運動を行う。(北陵中との連携) ・あいさつ標語を作り、あいさつに対する意識を高める。	・児童会が中心となってあいさつ標語に取り組み、児童や保護者へ様々な方法で啓発ができた。	B	・児童アンケートでは、「進んであいさつをしている」が肯定的な児童の割合が67%だった。	C	・学校だけでなく児童会やPTAの活動でも、あいさつについて重点的に取り組み、家庭や地域でも進んであいさつのできる児童を育てる。

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○県・全国学力学習状況調査の分析を基に、岡山型学習指導のスタンダードに沿った授業づくりをする。 ○チャイムスタートを中心に、規律ある授業づくりを目指す。 ○「聞く力」を伸ばすために、日々の授業から、発表する人や教師の話の落ち着いて聞くことができるように指導する。 ○小中連携による授業公開や研修を通して共通理解をする機会を多くもつ。	○北陵中ブロック小中連携リーフレットを使って、学習や生活について家庭で考えていただきたいことを、学級懇談など機会をとらえて伝える。 ○進んであいさつができる学校・地域を目指して、学校だよりや地区懇談会などでも話題に取り上げて、協力を求める。